

副会長就任のご挨拶



羽多野 宏子

今総会にて副会長に就任しました羽多野です、副会長職は5期目となりますが今期もどうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大から2年半が過ぎようとしています。新たな変異株の感染による拡大と収束を繰り返し、ワクチン接種も進められる中、未だ収束が見通せない状況です、大阪府栄養士会も感染防止の観点から活動を制約・制限してきましたが、総会でご報告したように担当者の努力と、会員の皆様のご支援で恙なく運営ができましたこと感謝いたします。

私は今期、会の活性化を図るため、会員増対策を積極的に取り組みます。

藤原会長も言われておりますが、3000人目標にあと1歩届きません。コロナ禍とはいえ対策を考えたいと思います。人が集まるところは(職場でも地域でも)活気があり、有能な人材も集まり発展します。リモート、対面等の工夫を凝らし、会員の声を聴き、実りある事業内容で満足度を高め、組織強化を図ります。

又、今期も栄養ケア・ステーション(CS)事業を担当致します。大阪府栄養士会栄養(CS)は、府民の保健衛生の向上を栄養・食生活の面から支援することを目的とし、府下には認定栄養(CS)14ヶ所(強化型含む)、登録栄養栄養(CS)16ヶ所が在ります。栄養指導・保健指導、在宅訪問・ケア会議等の保健医療・介護関連など多岐の活動をしておりますが、まだまだ人の確保、人材の活用、協力体制の構築が不十分です。府下医療圏域8圏域に5~6か所あれば、地域に栄養(CS)の存在感が見えるし、ネットワークづくりも可能です。

国は地域包括ケアシステムを推進しており「住み慣れた地域で人生100年時代を生き生きと暮らす」ためのサポート役として、管理栄養士・栄養士(食・栄養の専門職)は出番といえます。地域に活動を広め、社会的認知度をより深め、経済的自立の出来る栄養(CS)を増やしましょう。皆様のご参画をお待ちしております。

結びに「平和な暮らし」があってこそ栄養士会の活動も前に進むことが出来ます。コロナの収束とロシアによるウクライナ侵略戦争の早期終結を願って、就任の挨拶と致します。



中野 忠雄

このたび、3期目の副会長をやらせていただき研修会を担当します。どうぞよろしくお願いいたします。

ご存じのように大阪府栄養士会の定時総会は、5月28日に3年ぶりに集合での開催となり、総会特別講演に(公社)日本栄養士会会長の中村丁次氏をお招きして行われました。この講演の中で昨年12月に開催された「東京栄養サミット2021」での岸田総理大臣の挨拶が紹介されました。内容は、「今こそ私たちの行動が必要です。日本は、今後3年間で3000億円以上の栄養に関する支援を行うことを表明します。人間の安全保障の理念の下、ユニバーサル・ヘルス・ガバレッジ(すべての人が栄養から取り残されないために)の達成や、科学技術も活用した持続可能な食料システムの構築の実現に貢献します。栄養の力で人々を健康に、幸せにする、これは日本栄養士会会長の中村丁次氏の言葉です。日本はこの思いを世界に広げます」というものでした。また中村会長は、ジャパンニュートリション(日本中どこでも栄養バランスの優れた食事を創造できる社会を作り上げ、それを担う管理栄養士・栄養士の養成を行った)の発信が大きな話題になっています。これは単なる健康問題だけでなく、各ライフステージにおける栄養改善の取り組みによって、保健・医療・福祉のみならず、栄養に関するすべてのことを解決することがSDGsの達成につながり、世界の人々を幸せにすることができると講演されました。さらに栄養学の研究者ではなく、実践で働ける管理栄養士・栄養士を輩出することであり、ボランティアではなく、専門の仕事として成り立っていかねばならないと締めくくられました。

私も現在、管理栄養士の養成の仕事にたずさわっていますので身が引き締まる思いとともに、あと少しの間、管理栄養士・栄養士を目指す者に、この仕事のやりがいや面白さなどを伝えたいと思います。新型コロナウイルスも少し落ち着いてきていますので、管理栄養士・栄養士の資質向上と地位向上のため生涯教育研修会をはじめ、研修会の充実を図ります。会員増のために近くの管理栄養士・栄養士にお声をかけて多数ご参加していただきご意見をお聞かせください。2年間よろしくお願いいたします。

副会長就任のご挨拶



西村 智子

理事を務めさせていただいてから21年になります。5年前までは病院で働いていたので、医療部会の理事と4期前から副会長を務めさせていただいております。

そもそも栄養士会とは誰のために存在しているのか、研修会等を開催していただけていいのか、もっと患者さんや対象者に寄り添うように、会員にもっと寄り添わなければいけないのではないかと毎日自問自答しております。

最近歴史の授業でしか見たことがなかった戦争や、民間人が殺されたり、領土問題、地球規模での異常気象、地震、食糧問題、新型コロナウイルスやサル痘などの感染症が次々と世界に広がり、これからの未来も予想できないことがたくさん起こるかもしれませんが、その状況にいつでも対応できるような栄養士をみんな目指したいと思います。

今期では私は生涯教育と栄養ケアステーション登録のためのフォローアップ研修を担当いたします。

生涯教育は生涯学習から名前を変更したところから、管理栄養士・栄養士の未来のための内容が考えられており、それぞれの分野で働く皆さんを認定管理栄養士・認定栄養士として認定し、今知りたいことだけでなく、プロとして基礎力や、アイデア力を身につける研修会です。経験が豊富な方からすると少し頼りないかもしれませんが、認定管理栄養士・認定栄養士としてそれぞれの職場に入ることは、今まで以上に評価が上がり、そこに存在する価値が自信につながります。生涯教育はまだまだ発展途上ですが、たくさんの管理栄養士・栄養士が認定をすることで、診療報酬や介護報酬などへの行動に影響を与えるものと考えております。生涯教育は学校で習得した内容よりも一段ランクアップした経験のある先輩方や医師など多職種に講師をお願いしておりますので、ぜひ受講していただき、今後また皆様が困難に立ち向かったなどの経験した内容も含め後進のために講師をお願いしたいと思っております。生涯教育は皆様管理栄養士・栄養士のための教育システムです。ご参加をお待ちいたしております。またフォローアップ研修については在宅への栄養食事アドバイスなどができる管理栄養士・栄養士を育成するプログラムを組んでおります。血液データだけでなく、QOLの向上を目指していくことを第一と考えていきます。どうぞ会員の皆様のたくさんのご参加とご登録をお待ちいたしております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



塚田 定信

前回に引き続き、理事をさせていただくこととなり、今期も代表理事(副会長)を拝命いたしました。引き続き府民の皆様には有益な情報の提供や会員の皆様に活力ある管理栄養士・栄養士の職域拡大に努力したいと思います。

今期は広報の担当として、府民への情報提供について積極的に推進いたします。会員の皆様の日々の活動をしっかりと府民にご理解していただけるよう、会誌「栄養大阪」、ホームページの充実を図り会員のサポート、情報共有につなげていく所存です。

さて、今年社会医療保険医療報酬・介護報酬改定では、病棟担当管理栄養士について新たな進展がありました。今回の改定は次回2024年医療保険と介護保険の同時改定に向けた布石であり、今後の活動が大きく評価につながる場所です。管理栄養士の責務としてしっかりと対応していけるよう、取り組みを進めていきたいと思っております。

また、栄養ケア・ステーションについては機能強化型という新たな体制が始まり、これまで以上に大阪府栄養士会(栄養ケア・センター)と認定栄養ケア・ステーションとの連携、協力が大切かと思っております。広報担当としても、広報サポートに一層努力してまいります。

今もって、COVID-19の終息には至っておりませんが、徐々に社会活動の平静を取り戻しつつあります。今後、これまでのコロナ療養期間に蓄積した栄養に関する諸問題に向き合い府民への対応が図れるよう活動を強化してまいります。

ウィズコロナへの対応策として私たち管理栄養士・栄養士に何ができるのか、何をしなければならないのかをしっかりと考え、提案していきたいと思っております。

日本栄養士会では、8月にアジア栄養士会議(ACD2022)の開催に向け努力しております。ようやく海外の方々をお迎えしたリアル会議です。皆様もぜひご参加ください。

今期も適切で、タイムリーな情報が会員の皆様にお届けできるよう勤めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。